



令和4年度 グランドデザイン

松本市立信明中学校

—松本市の子どもに願う姿—

- * 「恕」(おもいやり)の心
[まつもと市民生いき活動]
- ・私は心を見がき、身体を使おう
- ・あなたにあいさつをしよう
- ・このまちをきれいにしよう

—本校生徒の実態—

- * よさ、伸びてきていること。
・素直さ、前向きさ
- * 伸ばしていきたいこと
・表現力、コミュニケーション力
・自己肯定 ・学力

学校教育目標

- * **健やかでたくましい心身をもった生徒**
(生きて働く知識・技能の習得)
- * **自ら求め、進んで行く生徒**
(学びに向かう力・思考力判断力表現力等の育成)
- * **他を理解し、思いやりの心をもった生徒**
(人間性等の涵養)

—学校長の願い—

- * すべての生徒に安心な居場所のある学校
- * 自己肯定感とメタ認知の育成
- ・授業を通じた生きる力の育成
- * 学びをとめない(感染症対策の継続)
(↓それに向けた)
- * 職員チーム力の保持増進

—保護者の願い—

- ・学力 ・思いやりの心
- ・社会性(協調性、コミュニケーション力)
- ・マナー、礼儀、あいさつ

重点目標

三本柱(学級づくり・授業づくり・環境づくり)とキャリア教育を通して

- ①不登校の減少(誰にでも居場所がある)
- ②学力の向上(追究する楽しさを味わえる授業の創造)
- ③自己肯定感を高め、社会的自立の力の育成(自治活動を通して)

合い言葉

「明日も学びに行きたくなる学校」

授業づくり

学力向上・楽しいと感じる授業

学級づくり

居場所づくり・自尊心・思いやり

環境づくり

時間・清掃・あいさつ

- ☆自尊心を高める
- ☆互いを大切にしたい関係づくり

○学級活動

- ・生徒理解
(QU,アセス等の効果的な活用)

○生徒指導・相談体制

- ・信明オリエンテーション
- ・相談の時間の設定

○人権教育・道徳・健康教育

- ・人権教育強調月間
- ・構成的エンカウンターの導入
- ・参加型の授業実践

全校研究テーマ

『生徒同士が支えあいながら、基礎基本が「わかる・できる・活かせる」授業の創造』

○学力向上を目指した取組

- ・主体的な追究を生む課題把握のあり方
- ・授業とリンクした家庭学習の課題
- ・ティーチ(教える)からファシリテート(進行調整)へ

○学習評価と後指導による学習支援

- ・単元ごと評価と後指導の充実
- ・合理的配慮(インクルーシブ教育)

○ICTを学びの道具へ

- ・思考、表現のツールとできる
- ・society5.0で生きる人へ

- ☆時を守り(時間) 場を清め(清掃) 礼を尽くす(あいさつ)
《汗を流して共に創る》

○生徒会活動の充実

- ・生徒による主体的な活動
- ・日常に秩序ある学校生活(当番活動、給食/清掃活動など)
- ・地域への貢献活動

○部活動の昂揚

- ・部活動における実践
- ・自発的な目標設定

○社会交流・奉仕体験

- ・地域貢献 ・SDGs
(ネパール国際交流)

P.T.Aとの連携

- ・親子綱引き大会
- ・地区懇談会
- ・講演会

☆松本版コミュニティスクール運営委員会

『おらがしんめい』の推進

職員の研鑽・研修

- ・教科、生徒指導、非違行為防止等の研修
- ・校内研修：指導者招聘、職員相互の研修
- ・校外研修：各研修会、研究会の参加、視察等

地域に学ぶ・地域の支援

- ・地域出前講座(講師招聘)
- ・地域支援ボランティア
出前授業、安全パトロール
学習支援、環境づくりなど

ネットワーク (CS運営委員会を設置)

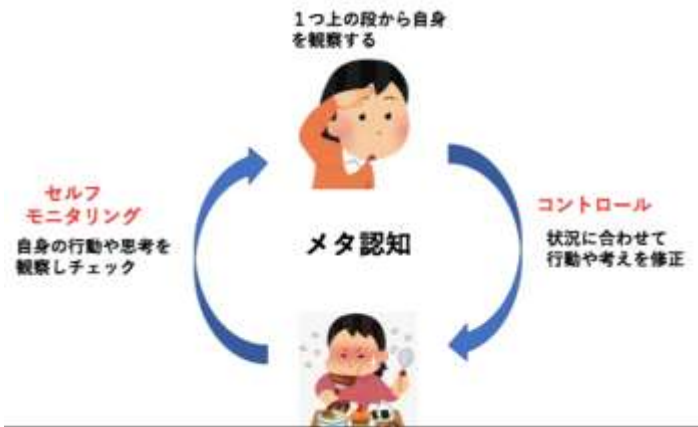
P.T.A 学校 公民館
信明倶楽部 地域

地域に貢献・発信

- ・児童館、福祉施設との交流
- ・地域イベントへの出演 等

【メタ認知】

メタ認知は「客観的な自己」「もうひとりの自分」などと形容されるように、現在進行中の自分の思考や行動そのものを対象化して認識することにより、自分自身の認知行動を把握することができる能力。



【怒(じょ)】

「怒」とは、「いつも相手の身になって物事を考えるこちら側のやさしさと思いやり」と解釈される。

孔子の「怒(じょ)」とは

〔原文〕
子貢問曰、有一言而可以終身行之者乎。子曰、其怒乎。己所不欲、勿施於人也。

〔読み下し〕

子貢問(しこうと)いていわく、一言(いちげん)にして以(もつ)て身を終(お)うるまで之(これ)を行(な)すべき者(もの)有りや。子曰(し)のたまわく、其(それ)怒(じょ)か。己(おのれの)欲(ほつ)せざる所、人に施(な)すこと勿(なか)れ。

【ファシリテート】【ファシリテーター】

ファシリテート (facilitate) には、「容易にする」「楽にする」「(行動・過程などを)促進する・助長する」等の意味。「ファシリテーター」は、「(物事を)容易にする人」「(グループの)まとめ役、世話人、進行係」ということ。

学校におけるファシリテーターとしては、まず生徒を対象にした授業づくり、学級経営、カウンセリングなどにおける役割が考えられます。例えば授業におけるファシリテーター(教師)は、知識や解決策を提示するのではなく、子どもの経験値や知識、感情を尊重し、寄り添い、問いかけます。このように子どもの興味・関心や主体性を重視することによって、子ども自らが新たなアイデアや問題解決策を発見していきます。そのことが、深い学びができる環境づくりにつながります。

また、教職員を対象としたファシリテーターの役割としては、会議や打ち合わせなどにおける爽やかな運営、教師間の協働促進、学校・地域の連携づくりなどが考えられます。この場合、ファシリテーターは、職員の多様性を尊重し、合意形成を丁寧に行うことによって、職場の協働性や創造的な話し合いの牽引役になることです。そして、学校経営上の柔軟な発想やアイデアを生み出すこと、組織・集団の問題解決などをめざします。

そのためには、参加者一人ひとりの発言を促したり、相互交流を促進したりして、一人ひとりが当事者意識を持てるように関与することです。

【Society5.0】

サイバー(仮想)空間とフィジカル(現実)空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会 (Society)。

狩猟→農耕→工業→情報社会 (4.0) に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。



※内閣府 HP より

【SDGs】

持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals) とは、2001 年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) 別ウィンドウで開くの後継として、2015 年 9 月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。SDGs は発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル (普遍的) なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。



【学校環境適応感尺度 ASSESS (アセス)】

多様な背景を持つ子ども達の「学校適応感」を測定するために開発された検査尺度。

- ①生活満足感…総合的な学校適応感を示します。
 - ②教師サポート、③友人サポート…教師、友人との関係が良好であると感じている程度を示します。
 - ④向社会的スキル…友だちへの援助や関係づくりのスキルをもっていると感じている程度を示します。
 - ⑤非侵害的関係…無視やいじわるなど、拒否的・否定的な友だち関係がないと感じている程度を示します。
 - ⑥学習的適応…学習の方法もわかり、意欲も高いなど、学習が良好だと感じている程度を示します。
- (「アセスの使い方・活かし方」栗原慎二・井上弥 2010 月刊学校教育相談 7 月増刊 より)



【インクルーシブ教育】

「すべての子どもが持っている力を最大限に発揮し、共に学び合うインクルーシブな教育」とは、障がいのある子が、自立と社会参加に向け、できる限り身近な地域で同世代の友と共に学ぶ中で持っている力を最大限伸ばすことができる教育であるとともに、障がいのない子も含めたすべての子が、仲間と出会い関わる中で多様性を認め合い、「多様な他者とつながる力」、「多様な価値観の中で問題を解決していく力」を育む教育です。

[leaflet8_1.pdf \(nagano.lg.jp\)](#)

そこで、県教育委員会では、「障害者差別解消法」の施行を受けて、すべての子どもが輝き、共に学び共に育つ学校を目指し、これまで推進してきた通常の学級における特別支援教育をさらに充実したいと考え、このリーフレットを作成しました。



○「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)とは?

障害者基本法の差別の禁止の基本原則を具体化するものであり、すべての国民が、障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害者差別の解消を推進することを目的として、平成25年に制定されました。平成28年4月に施行されます。

○学校教育における「合理的配慮」とは?

合理的配慮は、特別な配慮がないと他の子どもたちと同じように学ぶことが難しい子どもが、特別な配慮を必要としない子どもたちと同じスタートラインに着くためのものです。

まずは、これまで各学校、各学級で行ってきた個別の配慮を合理的配慮の観点(P4参考2)から見直すところから始めます。その上で、さらにそのお子さんにとって必要な配慮を合理的配慮として加えていくことが大切です。

【学校教育におけるユニバーサルデザイン】

「ユニバーサルデザインの7原則」は以下のとおりであり、学校におけるユニバーサルデザイン(UD)を考えるうえで参考になります。

- ①誰もが公平に使える
- ②さまざまな使い方ができる
- ③使い方が簡単で明確に理解できる
- ④使い手に必要な情報がわかりやすく理解できる
- ⑤誤った使い方をしていても事故を起こさない
- ⑥なるべく少ない身体的な負担で使用できる
- ⑦使いやすい大きさや広さが確保されている

日本でも、**すべての児童生徒にとって、わかりやすく学びやすい教育**をデザインする「教育のUD」の実践研究が進んでいます。

日本授業UD学会では、授業のUDを「特別な支援が必要な子を含めて、通常学級におけるすべての子が楽しく学び合い『わかる・できる』ことを目指す授業デザイン」と定義して、授業づくりや居心地のよい学級づくりを進めています。学習環境の整備ではありません。授業のUDも不可欠です。

さらに「教育のUD=特別支援教育」ではありません。現実には、障害のあるなしにかかわらず、学びの場において、苦しい思いをしている子どもたちや、激しい受験競争やICT環境になじめずに悩む子どもたちがいます。通常学級の授業でより多くの子どもたちにとって分かりやすい、学びやすいデザインを目指すことこそが教育のUDです。そしてそのためには、授業そのものを変えていくことが大切なのです。

授業を工夫することは、学びにつまずきのある子だけに焦点を当てることだという先入観を捨て、勉強のできる子も中間層の子も、同じように大切にできるよう授業をデザインしていくことが重要です。授業のユニバーサルデザインは、「簡単にする」「レベルを下げる」ことではないのです。

【ジェンダー】【ジェンダーフリー】

ジェンダー(gender)とは、生物学的な性別(sex)に対して、社会的・文化的につくられる性別のことを指します。世の中の男性と女性の役割の違いによって生まれる性別のこと。

ジェンダーフリー【gender-free】とは、性による社会的・文化的差別をなくすこと。ジェンダーにとらわれず、それぞれの個性や資質に合った生き方を自分で決定できるようにしようという考え方

従来の固定的な性別による役割分担にとらわれず、男女が平等に、自らの能力を生かして自由に行動・生活できること。(ジェンダーレスとの混同)

ジェンダーフリーとは「性差を否定すること」ではなく、性別による固定された社会的な役割を柔軟にしていく運動であり、逆を言えば従来通りの価値観すら認める立場である。一方で、ジェンダーレスは性別そのものを否定していく運動。

ジェンダーフリー運動が要求するのは「らしさ」の自己決定権であり、「社会から性差が無くなるべきだ」とは主張しない。この前提を理解していない、もしくは知らない人々が事態を複雑化させることを懸念する声がある。

【エンカウンター】【構成的グループエンカウンタ】

○定義

エンカウンターとは、ホンネを表現し合い、それを互いに認め合う体験のことです。この体験が、自分や他者への気づきを深めさせ、人とともに生きる喜びや、わが道を力強く歩む勇気をもたらします。

構成的グループエンカウンターとは、リーダーの指示した課題をグループで行い、そのときの気持ちを率直に語り合うこと「心と心のキャッチボール」を通して、徐々にエンカウンター体験を深めていくものです。

○現状

いま学校では、教師がリーダーとなり、エクササイズを実施し集団でエンカウンターを体験して心を育てようという気運が高まっています。いわば「本音を表現する人間関係の実験室づくり」です。

○内容

エクササイズは、自己理解・他者理解・自己受容・感受性の促進・自己主張・信頼体験という6つのねらいを満たすように用意されています。例えば、「私はわたしが好きです、なぜならば」というエクササイズでは、自分自身の好きなところとその理由を、グループのメンバーが順番に言うことで、自己受容を促すのです。